



インディゴブルー社長 柴田 励司氏

1985年上智大文学部、マーサー・ヒューマン・リソース・コンサルティング(現マーサージャパン)社長などを経て、2008年カルチュア・コンビニエンス・クラブ(CCC)の最高執行責任者(COO)に就任。10年6月から現職。

事業戦略と経営戦略は

「今」の時期に「未来」はより良くするもの、経営戦略は「未来」をより良くするもの、経営戦略は「未来」をより良くするもの。ベンチャー経営者に戦略を問うと10人中9人は事業戦略を語る。しかし、新規株式公開(IPO)を視野に入れ、事業戦略だけでなく、経営戦略が必要だ。経営者は「未来」を語らなければならぬ。会社立ち上げの時期は事業戦略だけでよい。自分がやりたいことをビジネスとして成立させること。これが最優先事項だ。そのためのファンづくりが主要な施策となる。「一緒にやってくれる仲間、さらに出資者、金融機関、事業提携先などの支援者、そして顧客。こうしてファンづくりに注力す

べきだ。この時期に「未来」はより良くするもの、経営戦略は「未来」をより良くするもの、経営戦略は「未来」をより良くするもの。ベンチャー経営者に戦略を問うと10人中9人は事業戦略を語る。しかし、新規株式公開(IPO)を視野に入れ、事業戦略だけでなく、経営戦略が必要だ。経営者は「未来」を語らなければならぬ。会社立ち上げの時期は事業戦略だけでよい。自分がやりたいことをビジネスとして成立させること。これが最優先事項だ。そのためのファンづくりが主要な施策となる。「一緒にやってくれる仲間、さらに出資者、金融機関、事業提携先などの支援者、そして顧客。こうしてファンづくりに注力す

限界定めず 夢を目標に

と限界がある。自分を前提にせず、事業の未来像を描きたい。投資家はベンチャー経営者に投資すると同時に、その経営者が描く未来に賭けている。その際に聞きたいのは今の事業を10%伸ばす話ではないので経営戦略をつくりたい。事業戦略ではないのだから。ベンチャー企業だ。目指している事業体そのものの進化系だ。途方もない夢でも構わない。そこに夢がある。この挑戦である。

夢が目標になったとき、人は計り知れない力を出す。ベンチャー経営者の次なる目標はまさに「夢を目標にすること」だ。それによって会社の組織を奮い立たせて「途方もない話」を現実化する。これが必要だ。客観的な目のありがたさ

このプロセスは一人でできない。多くの人を巻き込むこと、自分よりも優れている人に働いてもらうこと、これらができるといい。経営者が一人で考えるだけで、どうしても自分の限界から出られない。「自分が」ではなく、「他人を活用して実現する」スタイルに変えない存在がありがたい。

「他人を活用して実現する」スタイルに変えない存在がありがたい。自分だけで、どうしても自分の限界から出られない。「自分が」ではなく、「他人を活用して実現する」スタイルに変えない存在がありがたい。